

<校務利用> ④ 学校ホームページ掲載用の記事文章の生成

【手法】 ChatGPTを使用し、過去の学校HPの掲載記事を参照させながら文章を生成。（手順①～④参照）

【結果】 最終的には手直しは必要になったが、より手軽に文章を用意することができ、業務負担の軽減につながった。

①プロンプト

依頼

学校のホームページに記載する記事の文面を、当日の内容と過去の記事を参考に書いてください。

当日の日時

- 令和6年1月9日（火） 14:50～17:30
- ② 3年生対象交流会 14:50～15:40
- ② 教職員向けアドバイス 16:40～17:30

本取組の広報資料を転用

当日の内容

生成AIが急速に普及する中、美術工芸高校では、令和5年11月より文部科学省「リーディングDXスクール生成AIパイロット校」の指定をうけ、本校で育成したい資質・能力を高めるため、美術工芸科でのデザイン研究や、教科「情報」でのプログラミングなどで、Midjourneyや Chat GPT、Adobe等を活用した、指導方法や仕掛けづくり等、生成AIの教育利用に関する研究を進めているところです。

今回は本事業の一環として、本校における生成AI事業の伴走者である清水亮氏をお招きし、本校3年生希望者との交流会及び教員へのアドバイスを実施いたします。当日は「高校生と最新テクノロジー（生成AI）の実情」をテーマに、高校生が今感じている不安や期待、疑問をもとに清水氏と交流する他、美術専門教育を軸とした教育活動を行っている本校において、今後、生成AIを「どのように活用し、何をすべきか」について、アドバイスをいただきます。

講演会当日のメモを転用

清水先生からのアドバイス

ちょっとしたクリエイティビティがあればできること、はAIに変わっていく。既に様々な分野でAIが活用されていることを知っておくこと。
これからは「良質なデータ」を作り出す力が求められる。最終的にアウトプットされる作品もだが、美生の生徒たちが目の前で試行錯誤している制作の過程こそ、まさに良いデータである。
いまは新しい技術がどんどん出ていっている。目の前で起きていることに振り回されず、本質的なところを考えること。何ができるかより、何をやりたいか・作りたいかを明確にすること。
そして、いつか技術的に「できる」ようになった時に備えること。
AIの世界とは、「全部自分でやる」世界。そのために、特にマナーリテラシーは高校生からしっかりと学んでおくこと。
・付加価値を創造する力が重要。美術を通してそれを学ぶことができる。決まった答えはないが、その価値に違いは確かにある。それを観察する力、発見する力を持つこと。

過去の文面 {3つほど転記する}

②方向性の修正

生成された記事の問題点を生成AIに指摘し、修正した。

【問題点】

1. 記事が今後の予定のように書かれており、実施報告の形ではなかった
2. 当日の生徒の様子などを生成AIが予想して記事を補ったが、実際の様子とは異なる部分があった

③修正指示の上生成された文章

【開催報告】生成AI教育イベントが盛況に終了

令和6年1月9日（火）、美術工芸高校では生成AIに関する特別なイベントが盛況のうちに終了しました。このイベントでは、美術工芸高校が文部科学省「リーディングDXスクール 生成AIパイロット校」に指定されたことを受け、清水亮氏からの貴重なアドバイスを受け、生成AIの進化の影響について議論しました。当日の様子をご報告いたします。

- ① 3年生対象交流会（14:50～15:40）清水亮氏からの貴重なアドバイスを受け、生成AIの進化がもたらす社会への影響や、私たちがその変化にどのように対応すべきかについて考える場となりました。議論は少なかったものの、生徒たちは清水氏の話に熱心に耳を傾け、AI時代への適応に向けた洞察を得ました。
- ② 教職員向けアドバイス（16:40～17:30）生成AIの進化に対する質問や議論はあまり行われませんでした。清水亮氏からのアドバイスが生徒向けでも共有されました。

以下は、清水亮氏からのアドバイスの一部です。

- ・AIの進化に対して柔軟な姿勢を持つことが重要です。変化に適応し、前向きに捉えましょう。
- ・生成AIはデータに依存しています。良質なデータを作成することに注意を払い、学生たちにもデータの重要性を教えましょう。
- ・技術の進歩に振り回されず、本質的な問題に焦点を当てるのが大切です。何をやりたいかを明確にし、目標を追求しましょう。
- ・生成AIの世界は自己責任の世界です。マナーリテラシーを含む幅広いスキルを学生たちに提供しましょう。
- ・付加価値を創造する力が重要です。美術を通じてその力を養い、発展させることができます。

美術工芸高校は、AI技術との調和を通じて、生成AI時代においても生徒たちが成功するためのサポートを提供し続けます。今後もAI教育に力を注ぎ、学校全体で生成AIの恩恵を最大限に活かしていく決意です。引き続き、本校の取り組みにご注目いただき、共に未来を切り拓いていくことを楽しみにしております。

<校務利用> ④ 学校ホームページ掲載用の記事文章の生成

【手法】 ChatGPTを使用し、過去の学校HPの掲載記事を参照させながら文章を生成。

【結果】 最終的には手直しは必要になったが、より手軽に文章を用意することができ、業務負担の軽減につながった。

③修正指示の上生成された文章

【開催報告】生成AI教育イベントが盛況に終了

令和6年1月9日（火）、美術工芸高校では生成AIに関する特別なイベントが盛況のうちに終了しました。このイベントでは、美術工芸高校が文部科学省「リーディングDXスクール 生成AIパイロット校」に指定されたことを受け、清水亮氏からの貴重なアドバイスを受け、生成AIの進化の影響について議論しました。当日の様子をご報告いたします。

① 3年生対象交流会（14：50～15：40）清水亮氏からの貴重なアドバイスを受け、生成AIの進化がもたらす社会への影響や、私たちがその変化にどのように対応すべきかについて考える場となりました。議論は少なかったものの、生徒たちは清水氏の話に熱心に耳を傾け、AI時代への適応に向けた洞察を得ました。

② 教職員向けアドバイス（16：40～17：30）生成AIの進化に対する質問や議論はあまり行われませんが、清水亮氏からのアドバイスが生徒向けでも共有されました。

以下は、清水亮氏からのアドバイスの一部です。

- ・AIの進化に対して柔軟な姿勢を持つことが重要です。変化に適応し、前向きに捉えましょう。
- ・生成AIはデータに依存しています。良質なデータを作成することに注意を払い、学生たちにもデータの重要性を教えましょう。
- ・技術の進歩に振り回されず、本質的な問題に焦点を当てるのが大切です。何をやりたいかを明確にし、目標を追求しましょう。
- ・生成AIの世界は自己責任の世界です。マネーリテラシーを含む幅広いスキルを学生たちに提供しましょう。
- ・付加価値を創造する力が重要です。美術を通じてその力を養い、発展させることができます。

美術工芸高校は、AI技術との調和を通じて、生成AI時代においても生徒たちが成功するためのサポートを提供し続けます。今後もAI教育に力を注ぎ、学校全体で生成AIの恩恵を最大限に活かしていく決意です。引き続き、本校の取り組みにご注目いただき、共に未来を切り拓いていくことを楽しみにしております。

④実際に掲載した文章

生成AIについての交流会を開催

令和5年度、本校は文部科学省「リーディングDXスクール 生成AIパイロット校」に指定されました。生成AIの進化は日進月歩で、社会の様々なところに大きな影響をもたらしています。美術領域においてもその進化は目覚ましく、生徒や教員にとって生成AIを知り、教育的活用を行っていくことが急務となっています。

今回は本事業の一環として、本校における生成AI事業の伴走者である清水亮氏（AI/ストラテジースペシャリスト）を1月9日（火）にお招きし、本校3年生との交流会および教員へのアドバイス会を実施、生徒も教員も熱心に耳を傾けていました。

清水氏からの貴重なお話は、生成AIの進化がもたらす社会への影響や私たちがその変化にどのように対応すべきかについて、生徒・教職員共に考える場となりました。

以下は、清水氏からのアドバイスの一部です。

- ・「少しのクリエイティビティがあればできること」は、いまAIに取って代わっている。既に様々な分野でAIが活用されている事実を知っておくこと。
- ・生成AIの世界とは、「全部自分でやる」世界。そのために、特にマネーリテラシーは高校生からしっかりと学んでおくこと。
- ・これからは「良質なデータ」を作り出す力が求められる。最終的にアウトプットされる作品もだが、美術の生徒たちが目の前で試行錯誤している制作の過程こそ、まさに良いデータである。
- ・いまは新しい技術がどんどん出ていっている。目の前で起きていることに振り回されず、本質的なところを考えると、何ができるかより、何をやりたいか、作りたいかを明確にすること。そして、いつか技術的に「できる」ようになった時に備えること。
- ・付加価値を創造する力が重要。美術を通してそれを学ぶことができる。決まった答えはないが、その価値に違いは確かにある。それを観察する力、発見する力を育むこと。

本校では、社会の動向や技術の進化に向き合い、生成AI時代においても生徒たちが社会で活躍するためのサポートを提供し続けます。今後も生成AIをはじめ、VRや3Dプリンターなどの最新技術を取り込みながら、守るべき文化や伝統を将来につなげるための「学び」を模索し続けていく決意です。引き続き、本校の取り組みにご注目いただき、共に未来を切り拓いていくことを楽しみにしてください。

網掛け部分はAIにより生成された文章をもとに校正